

巻頭言

6年目のスタートにあたり

センター長 赤 繁 悟

県立8試験研究機関が広島県立総合技術研究所として統合されて今年度は6年目に当たります。昨年度末には5年間の総括として、県の産業施策や企業等ニーズを踏まえ、戦略的に人材や資金を集中投入するプロジェクト型研究を核とした研究開発と技術支援を推進する「広島県研究開発戦略」が策定されました。

また、平成22年には、10年後の目指すべき広島県の農林水産業の将来像を実現するため、「2020 広島県農林水産業チャレンジプラン」が策定され、生産から販売までを視野に入れた産業として自立できる農林水産業を目指しています。

平成20年9月のリーマンショック以降の金融危機や経済不況、昨年、東日本大震災と福島第一原発事故の影響による未曾有の被害、その後も欧州の信用不安や円高、更には東南アジアにおける大水害等、日本を取り巻く状況は厳しい状況です。また、グローバル経済の進展により同一商品・サービスは同一価格に収斂しますので、今後とも技術発展著しい新興国も含めた厳しい競争が予想されます。更に、広島県も例外ではなく日本の人口は、今後とも高齢化するとともに減少に向かい、労働生産人口も減少していきます。このような状況において、新たな経済成長のためには、付加価値や競争力を高めるイノベーション力の強化が求められています。水産海洋技術セ

ンターの役割・使命は水産事業者の皆さんのこのような経済活動に貢献できる技術開発・支援にあります。

「水試だより」は、第二次世界大戦と原爆の被害から復興に向けた中で、『一生懸命本県の水産業の発展を日夜念願する気持ちを益々旺盛にして、それが本当に本県の何かの役割を演ずるようにと、その手始めとして「水試だより」をご覧に入れることにします』との思いで、昭和24年12月10日から昭和41年12月の第145号まで17年間発行されました。そして昭和60年1月（146号）に復刊し平成17年3月の217号で終了するとともに、平成17年度からは新庁舎落成を機に新たに「水産と海洋 水産海洋技術センターだより（水技だより）」として再出発し、今回で22号となりました。

最近では、インターネットの普及で当センターもホームページ上で海況や赤潮、貝毒情報など出来るだけ迅速な情報公開を行っていますが、本誌では諸先輩の意気込みを継承しつつ、社会のニーズに応えることを旨として、県民・業界の皆さんに読みやすくかつ親しみやすく、当センターの取り組みや新技術の紹介をしたいと考えています。

写真はバットで育成したアマモ苗床シート

水産と海洋 No.22